

令和元年

第2回 総合教育会議録

あさぎり町教育委員会

令和元年12月26日(木)

令和元年 第2回 あさぎり町教育総合教育会議録（要旨）

日 時	令和元年12月26日（木） 午後1時30分
場 所	あさぎり町役場本庁舎 2階会議室 白髪岳
町長部局	あさぎり町長 尾 鷹 一 範
出席委員	桑原茂和 矢野幸代 澤田光徳 中村麻有
欠席委員	
事務局職員	教育長 米良隆夫 教育課長 木下尚宏 教育課長補佐 岡田哲郎 指導主事 小園貴寛 教育課主幹 坂本幸治

《開会 午後1時30分》

1 開 会

○岡田課長補佐 それでは、時間も来ておりますので、ただいまより、第2回あさぎり町総合教育会議を開会いたします。まず、尾鷹町長より御挨拶をお願いいたします。

2 町長挨拶

○尾鷹町長 どうも皆さんこんにちは。本日は、第2回目のあさぎり町総合教育会議ということで、皆様方もお忙しい中に、子供たちの教育について皆様方、教育委員の皆さんと、こういう議論ができますことに感謝申し上げます。また私のほうからの、提案が幾つかさせていただきますが、皆さん方から見て、本当に子供たちの教育にそぐわないものがあればですね、忌憚のない意見をいただいて結構ですので、少し私もあの思いが強いところがあるように自分でも感じるんですけども、そういうことで、進行させていただければと思います。どうぞよろしくをお願いします。

3 協 議

①あさぎり中学校における農業体験クラブの設立について

○岡田課長補佐 引き続き、協議に移ってまいりたいと思います。会議運営要綱の第4条にあります通り、進行については、町長をお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

○尾鷹町長 まず、そのさっき言いましたように私の考え中がこの協議内容に入ってるんですが、1番は、あさぎり中学校における農業体験クラブの設立ということを上げさせてもらってます。一つはですね、総合的にあさぎり町の農業の活性化を考える中で、南稜高校、それからその後ろにJAあさぎり支所、その後ろに県の農業試験場、そしてあさぎり中学校とずっと並んで、こういう環境の場所はまず無いと思うんですね。それとあさぎり町はもう人吉球磨では、耕作面積も3,000ヘクタールを超えますし、農家さんの数も多いし農業としては、もう、あさぎりが人吉球磨の中心であるという中で、若い人たち、次の時代の担い手さんも、あさぎりは他町村と比べたら多いわけです。ですので私の考えとしては、やはり

農業の活性化を1番私は力を入れて今取り組んでいるところで、来年度の事業の中にもですね、農業のいろんな取り組みを盛り込んでいるわけですが、その中の一つに、アグリバレー構想というのを作ってます。一つは、県の農業試験場のあそこにいらっしゃる職員さんがだんだん人員削減されて、県のほうも、将来的には引き上げるのではないかというような話もあってですね。あれだけのいい圃場があるところですので、活用することを考えていきたいということで、あそこには、今、皆さん御存じのように薬草栽培があさぎりを中心に人吉球磨でどんどん耕作面積が増えてます。ところがですね、この薬草が、ほとんど中国を中心にして輸入が多かったもので、国内に今、ツムラさんが切りかえようとする時に、いろんなノウハウがないんですね、栽培ノウハウ、それから使っている農薬がまだ、十分に検討されていないということで、あそこをいろんな薬草の栽培試験場にしたいということで今、県と協議をしているところですが、そういうふうな活用の中でですね是非やっぱり中学校にも、農業体験クラブがあつていいんじゃないかというふうな思いで、提案させてもらってるわけです。学校というとほとんど、サッカーとか野球とか陸上とか、そういうスポーツあるいは文化的な吹奏楽部とかですねコーラス部とかがあるわけですが、農業研究クラブとか農業体験クラブというのは、全国でもゼロじゃないと思うんですけど、珍しいんじゃないかと思うんですが、ただ、大人が準備してやった中で、田植えをする、稲刈りをする、体験農業だけじゃなくて、実際に土づくりから、種をまいたり苗を植えたり、そしてずっと育てていって、それを生産したものを、料理して食べるあるいは販売する総合的な体験をしてもらうということが一つは本人たちにもいい経験になるでしょうし、あるいは農業に関心を持ってもらって、農業人としてこのあさぎりで活躍してもらおう。そういうことを考えてですね今この提案をさせてもらってるわけです。来年の4月から立ち上がれば1番いいんですけど、もうちょっと、学校側とも協議しながら進めないと、そう救急にはいかないかなという考えてるところです。皆さん方の御意見をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いします。今までどんなですか、そういうのって学校に、

○桑原委員 中学校でそういうクラブというのは無かったですね。学校でするのは花壇を作ったりするぐらいのことはありますよね。

○澤田委員 深田小学校でよかそこ総合商社、起業体験、これは年間を通して、それこそ各学年が、種植えから加工、販売まで携わって体験はありますけど・・・子供主体のクラブはなかですよ。

○尾鷹町長 私たちが中学校頃はもうだいぶ55年ばっか前なんですけど、進学しない生徒は、3年生は農業だったんですよ。進学する子は英語、進学しないで中学校で集団就職する子は、農業、農業生産力がなければ直ちにそうですねですね。例えば、サッカーとか野球とかしながら、併用ができるなら、私はそれでも構わんと思うとですよ。学校の中のスケジュールが多いでしょうから、なかなかそういうのに時間がとれないのかもしれないなと思いつつながら、、、パキスタンで亡くなられた中村智さんですかね、やっぱりああいう人達でやっぱり農業の基本を知つとるなるからでくつとですよ。あるいは近代的な農業を知っている人はでけんですよああいう事はだから私は、この農業体験クラブって書いてありますがどちらかというとな農業研究クラブですけど、私は昔からのやっぱり鍬、使つて畑を起こす畝をつくる。そういうところから。何でかつていうとですね、今の若い人たちは腰を傷むつとでしょ。それは膝の使い方を知らんけんですよ。膝を使わないから、今の若い人たちは、介護の施設に行つてもすぐ腰を痛める腰で抱えるから高齢者の人たち見とつたらみんな膝を使いなつけんですよ。だから足腰が強くなつて、私が何でこれと言うかという、テレビ見とつてですね、フランスの柔道の監督が来て、中学校の弱いチームの柔道を主導するときに、八王子の畑に行つて鍬で、畑をおこさつとつとですね。自分は母親と母子家庭で、お母さんのお手伝いで農業しよつたけん足腰が鍛えられて柔道が強くなつた、それが私の考えと一致したもので。ああやっぱ同じ考えの方がいるんだなと思つてですね。

○米良教育長 先ほどありましたように土づくり等から始める農業体験クラブでしょうか。学校給食の指定校になりますと、意外と土づくり、そして野菜を植えて、そしてそれを今度は学校給食の食材として、提供するというような流れのこうものは、研究はしやすくはなりますですね。子供たちの中には例えばピーマンが嫌いな子供でも自分たちで育てたピーマンだったら食べようになったんだとかそういうような効果もあるもんですから、そういうのも、深田小学校が県指定を受けたときにもそういうようなことは地域の人材を活用しながらしておられましたですね。それと、近くに南稜高校がありますので、南稜高校が活用できないかということで今ちょっと相談に乗っておりますのは、中学生が、いろいろな農業クラブとかありますので、そういうのに参加できないだろうか、例えば放課後の活動がありますので、そういうものに中学生が参加することで、生き物に触れることで、やはりこう命を大切にするとか、あるいは自分たちで、畑に行きまして野菜等をつくると、そういうことを通しての大地の恵みの温かさとか喜びとかそういうものを体感できないかということで、ちょっと相談を行ってるところなんです。

○尾鷹町長 今ですね高齢者の人たちがほとんど露地栽培しよなっでしょう。だから指導者はいっぱいおんなつとですよ。そういう人たちに私は指導してもらいたいんですよ。農業の指導、やっぱり虫がついたり、やっぱり植える時期が遅かったり手入れが遅くなると虫がくる、手入れが早かったら虫がこない、そういうのっていうのは、今の高齢者の人達は実体験として持つとなつとですよ。虫が来たから農薬を使うんじゃなくて、虫がこないような管理をしていきなつとですよ。やっぱりそういう考え方ですよ。そのノウハウじゃなくて、そういうやっぱり生活の知恵とかそういうものが農業でいろんなことを教わるわけですよ。それが人間の幅を私は広くすって思うとですよ。

○桑原委員 教育課程の中にこれを組み込むというのは非常に難しいと思うので、やっぱり部活動としてすれば、校長先生と相談して、こういうのを、町長が考えているから作ってほしいということをして、じゃ、どういう風にしたら、そういう部活動ができるだろうかという考えていって、もし何人が集まればですね、子供たちにどういう事をしたいかこっちから、与えるのではなくて考えさせていっていきなつとから始めさせていければなあと。

○尾鷹町長 これもですね、もっと言うならですね、データ収集してAI化でくつとですよ。そういう、データベースをつくるということまで、農業もできるわけです。今、大人の人が持つてる農業の技術が子供たちがデータベース化していくちゅうことも、でくつとですよ。そうせんと今の高齢者と、今、もう人吉球磨からですねいろんな技術がなくなっていくとです。鍛冶屋さんの技術にしてもですね。だから例えば、自分たちの使う鋏一つにしても、鍛冶屋さんとこ行って鋏つくんなつとところを見ながらですね、やっぱりそういう体験ちゅうのは絶対私はよかって思うし、そういう技術も写真に撮ったり動画に取ったりしながら、もう全部データベース化して、残していけるとですよ。

○米良教育長 私もその教育課程の中にどぎゃかして入り込めることはないのかなというふうに考えてみたんです。そして、今2年生は職場体験で2日間実施しておりますので、3年生はもう7月が終わりますと部活動がほとんど終わるもんですから、その子供たちを取り組んだ体験も、教育課程の中に打ち込んで、例えば3年生の総合的な学習の時間の中で、そういう体験ができないかというところが、考えたことありますですね。そしたら、教職員の引率も結構しやすいし、何か事故があったときにもすぐ対応ができるもんですから、何かそういう形で、教育課程の中にうち込めないかなと思ひましてですね、近くにも自転車ですつていきますので、そういうのを活用できないかと考えております。

○尾鷹町長 できたら部活でやっぱり3年間通してやってほしいですね。ほんとに、学校のスケジュールとか、方針とかありますから、なかなか私が思つてるようなとおりにはいかないと思うんですけど、それとかやっぱりどうなんですかね、不登校の子供たち、やっぱり学校の近くまで来てそこでちょっと農業の仕

事学校には授業には入らないでもそこに来てやる中で、やっぱり大人の人とまみれていくことで、何かやっぱりいろいろ感じるものがあるんじゃないかなと思うしですね。やっぱり、ばあちゃんたちとつき合ううちゅうのは私はよかことと思うんですけどね。ばあちゃんたちが優しくしてくれんなんでしょ。そういうこともろもろ考えております。またよかったら検討していただいて、いろいろと御助言いただければ。

○矢野委員 ちょっと話はずれるかもしれないんですけど、高齢者の方々が、いろいろ経験されたノウハウを伝えられる人材バンクじゃないんですけど、そういうのがあれば保育園ですね、やっぱりこう虫がどうやったこないとか、何を今の季節に何を植えたらいいかっていうのが私では分からないので、おたよりのほうですね、畑のことを教えてくださる、おじいちゃんおばあちゃんがいらっしゃったならぜひお願いしまして、呼びかけたんですけど、だれもいらっしゃらないんですよ。もっと個人的に声かけたら来てくださるんでしょうけど、あさぎりにこういう農業バンクじゃないんですけども、そういうのがあったらばいつでも町に電話したらいつでも声かえかけたら教えてくれる方がいらっしゃればありがたいなあと考えてですね。

○尾鷹町長 当然、ここに教える人たちを集めてきますので、その人たちがこんな出前授業で活用ですね、リクエストがあればでくっちゃなかでしょうかね。昔は忙しかときには子供は親の仕事を手伝うのが当たり前だったんですけど、今は全然そういうところがなくてですね。結局人手不足人手不足ばかり言うところ中高生がおっとに、手伝わんとかなくて私も単純に思います。今の学校のカリキュラムの中ではそういう時間がなかっでしょうけれども、そういうことも考えて、農業体験ちゅうか農業研究クラブ。

○米良教育長 放課後の活動の中に組み込んで、教育課程外になるんですけども。

○尾鷹町長 だからもうサッカーとか野球とかの実情とかの部活と一緒にですね。

○米良教育長 やっぱり中には、私も以前学校でさせたことあるんですが、活動に入らない子、1週間に3回花植え活動クラブをという校庭をきれいにするような活動をした経験がありますが、そういう活動を通して、子供たちを農業体験に持っていくと。いうのもいいかもしれませんね。

②今後の通学路の整備状況について

○尾鷹町長 また次に行きましょか、今後の通学路の整備状況ということで、これ、事務局のほうからか説明があるんですか。

○岡田課長補佐 今後の通学路の整備状況についてということで、まずは教育課のほうで把握しております資料について、内容確認をしていきたいと思っております。この資料につきましては、各学校におきまして、洗い出しをされております通学路における危険箇所をまとめたものですが、第1回会議のときにも資料を出させていただいておりますけれども、今回12月17日に通学路安全プログラムの関係者会議が行われましたので、最新の情報を上げられております。赤い文字で示されている部分が、今年度新たに追加になっている部分でありまして、危険度としましては、1番右の欄にABCのランクづけをしていただいております。9月から11月にかけて、各学校で調査をした結果をまとめたものになります。また、通学路の整備となりますと、直接的には建設課のほうでの対応になるかと思っております。参考資料として上げさせていただきます。以上です。

○尾鷹町長 はい。通学路については議会で議論になるのは、あさぎり中学校の今井柳の別府から北門ですかねのほうに行く道がまだ未整備ですね。なかなか住宅張りついてるもんですから、用地買収等が難航して、進んでなくて、その結果、南稜高校のグラウンドの横を抜ける道路を生徒が自転車で通る、そうすると、住宅から駐車場から道路に出てきた車と生徒がぶつかりそうになるってということで、そういう危険の高いっていうのは、よく、議員さんから一般質問が出てくるんですけど、それについては、今日も、課

長会議の中でですね担当課で検討すると、早急に検討して、路線整備を急ぐということに話し合っているとありますが、教育委員の皆さんのほうから何か特に、この辺の取り組みを急いでくれとかというのがあれば教えていただければ、ふだんこう見ておられて、あそこは危ないなと思うところがですね。後、先日岡原小学校の交差点での事故があって、岡原地区の区長さんたちからですね信号機設置の要望が来ておりますので、それはもう警察のほうにまたお願いしようとは考えております。

○**澤田委員** はい、須恵の報告ですが1番上、川瀬橋が入ってますよね。中島橋は車道が狭い歩道がないところではいってないんですか。中島橋は川瀬橋よりまだ狭いと思うんですが。学校訪問の時も川瀬橋と中島橋は車道も狭く歩道もなく時間帯では通行車両も多いから危険個所じゃないかなと言ったんですけど。一応歩道示すような、グリーンラインは引いてありますけども。川瀬橋には引いてはないども。川瀬橋には行く行くは歩道はできるのかな。川瀬橋にもグリーンラインを引いてもらうようにして渡るようにしてもらえれば。

○**桑原委員** ハローから吉井をまっすぐ抜けている道がありますよね。岡原通り。岡原からくる道との交差点があって、それから過ぎたら右のほうに曲がって春日会館にあっちに曲がっていきますよね。曲がらず真っ直ぐ行けばあさぎり中学校の北門の方に抜けていくんじゃないかなと思って、狭い道があって南稜高校の農場の方に。あれを拡張すれば曲がらずにいけるのではないかな。

○**尾鷹町長** 今、築地の子たちはどこを歩いていっているのでしょうか。

○**米良教育長** 築地の子たちは、吉井の軽スポーツセンターの方を歩いてまして、国道は通ってはいませんね。ちょっと遠回りになりますが安全な道を通っていますね。

○**桑原委員** 心配なところは村田産業付近の点滅信号ですね。あれは、中学生だけではなく村田さんの従業員さんも渡ることがことがあり、注意はしますが信号機はついてますからね。

○**尾鷹町長** あそこも信号機設置の要望は出しているのではないのでしょうか。あそこも事故があったですからね。

○**桑原委員** 少しずつでも整備して、両側に歩道を作らなくても片側にでもあればですね。

③町の事務事業に対して中学生が理解を深める方策について

○**尾鷹町長** それでいいですか。はい、3番にいきたいと思います。町の事務事業に対しての中学生が理解を深めて方策についてちゅうのは、これ先だって中学生議会を開かせていただきました。せっかくですので、来年度からは、その前にですね、1回、町のほうから、町の取り組みを説明させていただくような授業を1時間ですから50分ですか、でもとっていただけないかなっていうお願いです。これは実際今度もお願いしたんですけども一般質問の原稿締め切りが迫ってたもんで、ちょっと時間学校側で時間がとれないちゅうことで、本年度はできなかつたんですけど、できましたら前もって資料作成して子供たちに配布しといて、そしてそれによってまた何時間もって時間取れませんから、前もって読んでもらって50分間の授業でちょっと説明すると、それによってそれだけでなくもいいんですけど、質問をしてもらうと、町の取り組みを理解してもらうような、学習の時間があればなあというお願いです。

○**米良教育長** 今年は町長のほうからですね、いい案を出してもらって、私もそのような学校に投げかけたんですが、文化祭等とちょっと重なりまして、なかなか時間がとれないということ、社会科の公民の単元と地方自治がありますので、そこうまく合わせれば、さらに子供たちがそこで学習した内容プラス、あさぎり町での取り組みということをゲストティーチャーとして授業か3年生だけの全体の社会科の一環として説明をする時間をとると、さらにその社会科のその地方自治の単元の充実もなるんですけど、あさぎり町の実際の取り組みというのがそこで子供たちは理解するんじゃないかなと思った次第です。来年もし

よければそういう形でのゲストティーチャーとして社会科の中に入っていろいろな話をさせていただければですね。特に企画財政課、建設課あたり非常にこう町のいろんなところでかかわっておられますので、そういうのはどうかと思いました。

○尾鷹町長 50分で、なかなかここまで話せるかっていうのはあるんですけど、例えば、あさぎり町の税の収入がどのくらいあって、過去10年間でどのくらい推移があるかと、ちょっと説明する税務課5分ぐらい。今、農業人口がどのくらいで推移しているとか、農家さんの所得がどのくらいだとか。これからの農業はもうどんどんAIとかコンピューターが入ってきますよとかですね。

○米良教育長 それとあわせて小学校の4年生が社会科見学でいろいろ施設回っていくんですが、場合によっては中学生もいろいろな施設も回って、具体的な建築費とかですね、そういうのもこう示してやると、子供たちは町の財政も理解する機会になるかなと思いました。やっぱり現場の見学と。

○尾鷹町長 やってみて、うまくいかなかったらまた、やり方を工夫して。とりあえず1時間でもそういう時間を設けていただければ、そういう工夫して。

○米良教育長 ぜひこれはもう来年ちょっと、また、要望強くしたいと思ってます。いい機会になるかなと思ってます。

○尾鷹町長 ある程度その、総合計画の中で数字がありますから、そういうものから拾い出してくればですね。資料はできると思うんですよね。そういうことでお願いします。

④児童・生徒の現状について ※非公開案件

<非公開案件につき内容は省略>

⑤小学校社会体育移行と中学校部活動について

○尾鷹町長 5番にいきたいと思います。小学校の社会体育移行等中学校の部活動についてということで、資料がありました。

○岡田課長補佐 はい、この議題について、A3の横長の資料をご覧くださいと思います。資料2になります。これについては、昨年まで、小学校部活動の移行に関する検討委員会がありまして、本年度は、その検討委員会が社会体育に関する検討委員会ということで、名称を変えまして、引き続き検討されているところです。その中で議論されている内容になりますが、1枚目につきましては、あさぎり町で活動されているジュニアスポーツクラブを取りまとめた表になります。13種目で19クラブが活動されております。1枚めくっていただきますと、この検討委員会の中で、アンケートを実施されております。小学校児童の4年生から6年生を対象にしたもので、平成31年の1月に実施しております。回答が全体としましては、1番右の欄になりまして448名から回答をいただいております。そのうち、ジュニアクラブに加入している児童が264名になります。その下の欄で1番右のほうの数字をご覧くださいと思いますが未加入者が184名おられます。これについては、前回の調査よりも少し伸びております。また、その184名加入者のうち、運動が好きか嫌いかどうかでもないかというような、アンケートも実施しております。1番右の欄を見ていただきますと未加入ではありますが、111人は運動が好きという結果が出ているところです。また、やってみたいスポーツありますかという問いに対しても92名の方がありませんと答えております。もう1枚めくっていただきまして、これアンケート内容を集約したものになります。アンケートは平成28年3月から実施しております。30年の2月と、30年の6月、最新が31年の1月となっております。加入率につきましては30年6月まで、かなりの伸びを示しておりますが、若干落ちつきを示しております。若干伸びと、いう結果になっております。今後につきましては、社会体

育に関する検討委員会の中で、どうしたら子供たちがスポーツに親しめる環境を整備ができるかということも含めて、検討いただいてところです。本年度につきましてあと1回開催しまして、まとめをするような方針で進めております資料につきましては以上でございます。

○尾鷹町長 はい、ありがとうございました。何かこの資料について、何か御意見があれば質問とか。

○澤田委員 一週間か二週間前にニュースで全国的な子供の体力低下っていうのが出ていたですね。特に持久力が落ちていたですね。総合体育ってどうなっているんですかね。

○米良教育長 いいですか。一応放課後、それから、昼休み等を使った体力づくりについて各小学校、比較的本町では計画的に実施されておられます。ただやっぱり12月24日のこのスポーツテストの結果が新聞にも載せてあったんですけど、確かにやっぱりいろいろな要因があると思うんですが、私は2年ぐらい前からですね、ある県をちょっと注視してらるんです。もう名前出していいですけど、大分県です。大分県が今、小学校の男子が全国の第2ぐらいです。1位は福井県ですね、女子はトップ。男子も大体ベスト3に男女共に大分県は体力向上県として位置づけられているんですが、以前は、熊本県よりひっかかったんですけど、なぜそのように高くなったかといいますと、各教育事務所に指導主事を複数配置をして、何十人と配置をして、そしてその指導主事が各小・中学校に出向いて、そして一緒に授業をする。ゲストティーチャーのTTとして、授業をして、そして、その学校の体力づくり企画委員会にも入りまして、そして、週に子供たち3時間は体育の授業がありますので、その体育の授業を通した体力づくりともあわせて、充実した体育科の授業展開しております。その成果がやっぱりこういう形で出てきているのかなというふうに思っておるもんですから、私も本郡からも指導主事で行っている先生にも常々、熊本県はそういう動きはないのか、体育保健課長のほうにも、やっぱり大分県の取り組みについて、いろいろ話したりはするんですけども、やっぱり熊本県もそういう形で、やっぱり体力向上をねらうならば、やっぱり週3時間体育科の授業中の貴重な時間じゃないかというふうに思っておるもんですから、また、この件については引き続き、お願いをしていこうかなというふうに思っております。やっぱ高校生の技術といいましょうかそれを伸びも大分県も少しずつ上位のほうに入ってきておるもんですから、その成果が出ているのかなという感じがいたしますので、私もちょっと大分県のこういう取り組みを注視していきたいというふうに思っております。

○尾鷹町長 この加入見込みに男女の差をつけちゃいけないんでしょうけど、多少は、比率的には、やっぱり、それも少しはあるでしょうね男女の。

○米良教育長 それぞれ年度の加入率が示してあるのがございますが、大体1番競技名のトランポリンのところまでが大体58.9%かなあと、約59%、その他というのがあるもんですから、その他の子供たちを入れると、またさらに参加率を上げるのではないかなというふうに思ってます。その他の中には、ダンスがあるんですけど、非常にこ女の子たちが中心にですね。やはり意欲的に、ただ、このその他の中には、部活動もして、そしてその他の種目もやるっていうことも重複している子供もおるわけですね。でも、それを、累計として出したらもう70%近くが実際は入って活動しているというようなこととしてとらえることはできるんですがやはり重複はしているかなというふうに思っております。ちょっと私も統計とったことはないんですけど、比較的うちはスポーツクラブが数多くあるもんですから、ほかの町村からすると、すんなり移行ができて、子供たちの活動の場というのは、ある程度こう、補償できたのかなというふうに思っております。パーセント若干ですけど上がってますので、そういう面では、恵まれているかなあというふうには思いました。そして指導者の方がまた一生懸命ですね。ありがたいですね。

○尾鷹町長 あさぎりは生徒数が多いから問題なかごったですけども、他所の小学校は、スポーツクラブに入って中学校に上がったときに部活がない。生徒数が少なくてですね、そういう、だからもう、親が送っ

ていって、人吉のスポーツクラブに入れたりとかですね。水俣行ったとか。よろしいでしょうか。

⑥戦没者慰霊祭への児童・生徒の関わりについて

○尾鷹町長 最後に戦没者慰霊祭の児童生徒のかかわり方についてですが、実は今年も11月の17日ですかね。慰霊祭をやらせていただいて、私も、親族に戦没者がいるもので、ずっと参加してて、須恵の文化ホールからせきれい館にかわってだんだん参加者も減っていく、関係者の人からも、だんだん参加者が減っていく中で、やめることはできないし、今後どうしたらいいでしょうかというように、相談を受けまして、いつも中学生が作文を書いて読んでくれました。ですので、これをですね、来年度は、前半慰霊祭、後半を平和への祈りとか、あるいは、命の大切さとか、そういうものをテーマにして、中学生、小学生もいいんですけど、あるいは青年団にもちょっと声かけてるんですけど、何かこう、発表してもらいたいと考えてます。そのためには、もうそのため、この慰霊祭のためにだけ準備してたら、準備が間に合いませんので、年間を通じて、何かそういう取り組みの中でですね最終的にこの場で、そんな時間も、30分から1時間ぐらいしか時間がないと思うんですけど、そこで何かこう、命の大切さとか、あるいは平和の大切さを訴える場にしてもらったらと思います。一部の慰霊祭のほうも、あいさつ者を少し減らして時間を短縮しながら、そんな子供達の時間も増やしていきたいと考えているところです。一つは戦争体験者の語りべの人も高齢化したり、亡くなられて語りべがいなくなったということですね。戦争体験者の子供が、親から聞いた話を伝えてもいいでしょうし、そういう戦争体験の話を書く機会を作ってもらったりしながら、それと、今、あさぎりは支え合いという運動があるんですけど、割りかし自殺者が比率的にはあさぎりも高いものですから、そういう命を守るようなですね活動、そういうものも、福祉課のほうでやってますので、そういう話も子供たちに聞いてもらいながら、ここを一つの発表の場として、できないかなということ、教育委員の皆さんに御相談して、学校側のほうに御相談していただければと思います。何か御質問や御意見があればお願いいたします。

○矢野委員 なかなか土曜日なので学校あれて参加というのは難しんですかね。今ふと思ったのが、小学生が修学旅行で長崎とかに行ったときに、たまたま、須恵の学校の広報誌の中に、長崎に修学旅行に行った後の子供たちの俳句みたいなのが載っていたんですね。町の様子だったりとか原爆ドームに行った時、その俳句なんかの展示でもいいですよ。学習した後にこういうことに参加するといいですよ。

○尾鷹町長 どういう形ですかちゅうことをまず議論して、そしてそれをまた皆さんたちにお諮りしていかないと、まだ、私も、どういう形でやるかちゅう具体的な案もないからですね。だから福祉課のほうで命の大切さというのはやっぱり、自殺防止のこの活動してますから、そういうのの一環でやっていくこともできるしですね。平和っていうと、学校のそういう修学旅行とか学校の授業でやったものの中から、何かこう成果発表、書いたものを展示してもいいし代表で誰かが読むとかですね。一番いいのはもう自分たちで考えてやってもらって、任せてみたいと思うんですけども、子供の感覚で。私は青年団に頼んで青年団と子供たちで協議しながら、どういうイベントにするか、考えてもらってそれで任せてもいいかなと思っておるんですけどね。ただもうお互いにどっちも時間がないかな。時間的に難しいかなと思うんですけど。今あさぎりの青年団も結構積極的に活用しよるものですね。青年団長にお願いして、その辺のところを学校側と交渉してもらったり、しながら、もうその時間的にちょっと無理ですよというのであればまた何とか考えんといかんですけど、できたら、青年団を中心に子供達と学校で協議しながらですね、何か手づくりで、やってもらうのが一番いいかな。我々がとらえている平和と、やっぱり子供たちがとらえてる平和と私は違ってよかと思うんですけど。その違いを出すことのほうが大事かなと思うんですけどね。我々の考えで演出までしてしまわずに。

○米良教育長 青年団のほうが、やっぱりそういう平和についてのいろいろな考え方は、前向きに考える力が高いと思いますですね。

○尾鷹町長 我々の世代も全然違いますから。

○米良教育長 そして組み合わせとしまして青年団と高校生では年齢が近いんですけど、青年団と中学生ちゅうのは年齢がちょっとだからいいなという感じがします。逆に中学生のほうは、青年団に対して、あこがれもありますので、そういう面も含めていい距離感じゃないかなと思ってますですね。

○尾鷹町長 そういところで一応協議を進めてみたいと思いますので、また次回の総合教育会議はまた来年の6月ごろですね、その頃に何か形ができれば御報告とか相談とかさせてもらいたいと思います。あとその他というところで、何か皆さんのほうからございましたら。（「特になし」という意見あり）この前、中学生議会がありまして、最初の答弁をしながら、あいさつもせろということだったんですけど、何か子供たちが、何人だったですかね17、8人ですかね。席に座ってた。やっぱりあの目を見たときに、ほんとどきとしたですね。すごいなんかパワーを感じて、何かきらきら光ってますよ。ついいらんことをしゃべってしまったんですけども、ほんとなんか、初々しいというかなんかほんと可能性を感じるような感じだったですね。企業関係者から聞くそうですね。球磨郡の子供たちが非常に評価が高いんですよ、高卒の子供たち。非常に素直で順応性が企業としては、よく言うことを聞いてくれるということでしょうけど、だからわりかし案外皆さん職場から歓迎されて会社が絶対離さない。だからそれが今度は高校に求人であつ有名な会社から、何人卒何人卒というのがずーと決まってるのは、やはり先輩たちの功績があると思うんですね。その分人吉球磨は出てしまうわけですね。みんな、人吉球磨の子供は素直といいなんですよ。この風土もあるんでしょうけど、そういう皆さんがたの日ごろの努力の成果だと思うんですけどもですね。よろしいですか。（「はい」という意見多数あり）

○岡田課長補佐 閉会の前に、本日、意見交換をしていただきました内容の中に非公開とすべき内容がございました場合には、非公開として対応したいと思いますので、御理解をいただけますでしょうか。（「はい」という意見多数あり）よろしく申し上げます。それではこれもちまして、第2回あさぎり町総合教育会議を閉会いたします。どうもありがとうございました。

《閉会 午後2時45分》